慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

| | |
|---|---|
| Title | BCCWJに現れた統語的複合動詞「～つける」：実例を踏まえた指導法を目指して |
| Sub Title | |
| Author | 村田, 年(Murata, Minori) |
| Publisher | 慶應義塾大学日本語・ 日本文化教育センター |
| Publication year | 2023 |
| Jtitle | 日本語と日本語教育 No.51 (2023. 3) ,p.37- 64 |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | 論文 |
| Genre | Departmental Bulletin Paper |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20230300-0037 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾大学　日本語・日本文化教育センター紀要
『日本語と日本語教育』51：37–64（2023.3）

# BCCWJに現れた統語的複合動詞「～つける」

## ―実例を踏まえた指導法を目指して―

村　田　　年

## Ⅰ．はじめに

筆者は、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ）を用いて、三つの文章ジャンル（自然科学系（含技術・工学）、社会科学、文学）における複合動詞の使用頻度調査を行った（村田 2016）。その調査結果をもとに、使用頻度が高い後項動詞の中から「～つける」を取り上げ、上記三つのジャンルにおける複合動詞「～つける」の使用頻度を調べた。さらに三つのジャンルに共通して高頻度で出現した「押しつける」について、その用法の特徴を分析し、指導方法の提案を行った（村田 2020, 2021）。調査では使用頻度順位第 35 位までの複合動詞を取り上げたためか、一般的に使用頻度が低い統語的複合動詞は抽出されず、統語的複合動詞に言及する機会はなかった。しかし、複合動詞の指導においては、統語的複合動詞の用法も合わせて導入し、後項動詞が持つ重層的な意味を示すことは重要だと考えられる。

例えば、複合動詞「～出す」の場合を考えてみよう。初級レベルで既に「開始」の意味を表す「雨が降り出す」を学んでいるので、中級レベルで「書き出す」、「運び出す」などを提示して、「～出す」が内から外への移動を表すと同時に開始の意味でも使われることを確認することができる。同様に「～かける」の場合も、「話しかける」が「友人だと思って話しかけたら知らない人だった」（志向[1]）、「そのことを話しかけて急にやめた」（始

動）というように多義性を持つことを同じ前項動詞「話す」を用いて説明できる。しかし、中級後半レベルで「押しつける」が出現すると、統語的複合動詞の「習慣」の意味を「押しつける」の用例を使って説明するのは難しいことに気づく。それは、以下のように不自然な文になってしまうからである。

? ・私はいつもその機器のレバーを押しつけているので、操作を間違えることはない。

そのため、統語的複合動詞「～つける」の導入では、前項動詞を変え、「食べつける」、「やりつける」等の例を挙げて、前項動詞が限定されると説明している。

- 普段やりつけている仕事でも、集中しないと間違えることがある。
- 外国で食べつけていないものを食べると体調を崩すことがある。

学習者は、統語的複合動詞が「習慣」の意味を持ち、持続態「ている」の形を使うことも理解するが、前項動詞がどのように限定されるかは不明確なので、以下のような作例が出てきてしまう。

a. 私は普段キーボードを押しつけているから、とても速く打てる。
b. 彼は日本語を読みつけていないので、漢字の知識は不十分だ。

このような不自然さは「巻きつける」、「叱りつける」などでも起こる。

c. 看護師は毎日患者に包帯を巻きつけているから、とても上手だ。
d. 母は弟をいつも叱りつけているので、家族は全然気にしない。

こうした不自然な例に遭遇したことで、統語的複合動詞「～つける」は実際に使用する際にはかなり制約が強いのではないかと考え、一度用法の整理を試みたいと思っていた。それが本稿の出発点である。

本稿では、BCCWJ で抽出された複合動詞「～つける」の統語的複合動

詞の実例に基づきながら、複合動詞に関する先行研究の成果を用いて、上記に挙げた不自然な作例が産出される理由を探るとともに、統語的複合動詞「～つける」の指導方法について検討する。

## Ⅱ．複合動詞「～つける」の意味特徴

姫野（1999: 111–112）は、複合動詞「～つける」を語彙的複合動詞と統語的複合動詞に分け、語彙的複合動詞の意味特徴については格助詞「に」を取るか取らないかを基準に 11 に細分化している。表 1 にその概要を示す[2]。

姫野（1999）は、統語的複合動詞の「～つける」について、影山（1993）のいう統語部門に属し、サ変動詞とも結合すると述べ、意味についても、国広（1970）「習慣的な連続を意味している」を引き、「長期的に見れば、一定の状況の絶えざる「接触」ともとれるので、「つける」の本義がある程度生きているとも考えられる」と述べている（姫野 1999:110）。以下にその説明を引用する。

> 「～つける」は、何度もその行為を繰り返して慣れている、なじんでいることを表す。前項動詞は、繰り返しのきく意志的行動で、日常生活に関係のある語が多い。人生において一度限りと（通常は）されている「結婚する」や「死ぬ」等、同一の対象については繰り返しを前提としない行為「知る」、「愛する」等には結合しない。類似の表現「～慣れる」がある。大部分は言い換えられるが、次の場合は、できない。
>
> 住み慣れる
> ＊住みつける：同一の場所に繰り返し住むことは通常はない。
>
> この医者にかかり慣れている：「慣れる」にはなじむことへのプラス評価を伴う。医療行為にはそぐわない。
> この医者にかかりつけている：特に評価なし

表 1　姫野（1999）の分類（訂正版）

| A　接着・密着の「～つける」 語彙的複合動詞 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 格助詞「に」 | 例文 | | | | | | 複合動詞 | | | | | | | 意味特徴 | 自動詞／他動詞 |
| 1. 有 | 現場<br>現場 | に<br>に | 車 | を | 駆けつける<br>乗りつける | | 場所 | に<br>へ<br>まで | （乗り物） | を | ～つける | | 1.1 | 場所への到着 | 自＋つける＝自<br>他＋つける＝自<br>自＋つける＝他 |
| | 壁<br>鎖 | に<br>に | 板<br>紐 | を<br>を | 打ちつける<br>結びつける | | 対象 | に<br>へ<br>と | 物 | を | ～つける | | 1.2 | 対象への接着・密着 | 他＋つける＝他 |
| | 相手 | に | 皿 | を | 投げつける | | 対象 | に<br>へ<br>に向かって<br>にめがけて | 物 | を | ～つける | 対象への指向―完全な接触を目指す― | 1.3.1 | 物理的接触 | 他＋つける＝他 |
| | 子供<br>農家 | に<br>から | 用<br>米 | を<br>を | 言いつける<br>買いつける | | 人 | に<br>へ<br>に向かって<br>に対して<br>から | | を | ～つける | | 1.3.2 | 対人行為接触 | |
| | 自宅 | に | 部下 | を | 呼びつける | | 場所 | に<br>へ<br>まで | 人 | を | ～つける | | 1.3.3 | 主体者近接 | |
| | 道路 | に | | | 照りつける | | 対象 | に<br>へ<br>に向かって | | | ～つける | | 1.4 | 対象への強度の接触指向 | 自＋つける＝自<br>他＋つける＝他 |
| 格助詞「に」 | 例文 | | | | | | 複合動詞 | | | | | 意味特徴 | | | |
| 2. 無 | 馬 | | | を | 押さえつける | | 対象 | | | を | ～つける | 強調 | 2.1.1 | 物理的接触 | 他＋つける＝他 |
| | 子供 | | | を | 叱りつける | | 人 | | | を | ～つける | | 2.1.2 | 対人行為接触 | |
| | 秘密 | | | を | かぎつける | | 情報 | | | を | ～つける | | 2.2 | 対象の補足 | 他＋つける＝他 |
| | 木 | | | を | 燃やしつける | | 対象 | | | を | ～つける | | 2.3 | 状態移行 | 他＋つける＝他 |
| | 心／気分／腰など | | | を<br>を | （別物と）決めつける<br>落ちつける | | 対象 | | | を | ～つける | | 2.4 | その他 | |
| B　習慣の「～つける」 統語的複合動詞 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 例文 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 辛い物 | | | を | 食べつけている | | | | | | | 習慣 | | ［意志的動作を表す動詞］＋つける | 他＋つける＝他<br>自＋つける＝自 |

＊本表は姫野（1999,pp111–112）の分類を 1 ページの表にして村田（2020）表 6 として掲載したものだが、誤りがあったため、訂正版を掲載する。

複雑な道具でも、時間がたてば、使い慣れるだろう。
＊複雑な道具でも、時間がたてば、使いつけるだろう。

「～つける」はアスペクトの様相を帯びており、述語として終止法にたつ時は、常に持続態「～ている」の形で用いられる。すなわち、繰り返しによる結果の「なじみ」の状態を表すものだから、「時間がたてば、使いつけるだろう」という表現はできない。（姫野 1999:118）

上記の説明を踏まえ、前掲 a～d の 4 例を見直してみると、前項動詞「押す」、「読む」、「巻く」、「叱る」はいずれも繰り返しのきく意志的行動を表す日常生活に関係する動詞であり、アスペクト的にも持続態になっていて、「押し慣れている」というように「～慣れている」に言い換えることができ、「なじんでいる」ことを表せると言える。これらの特徴は統語的複合動詞の重要な成立条件だと思われるが、この条件だけでは前掲 4 例の不自然さは説明できないと考えられる。

そこで、次のⅢでは、BCCWJ における複合動詞「～つける」の使用頻度調査を踏まえ、実際に統語的複合動詞がどのように使われているのかを見ていく。Ⅲの調査結果を踏まえ、Ⅳで考察を進めることにする。

## Ⅲ． BCCWJ における使用頻度調査結果

複合動詞「～つける」については三つのジャンルで延べ約 17500 語が抽出されている [3]。統合的複合動詞は一般的に使用頻度は少ないので、本調査では使用頻度が低い順から見ていくことにした。村田（2020）では各ジャンルにおける使用頻度第 35 位までの語を対象としたので、本稿では便宜上、使用頻度第 36 位以下の語を対象として調査を行った。使用頻度第 36 位以下の複合動詞「～つける」は、異なり語数で見ると、ジャンルごとに自然科学系（含技術・工学）は使用頻度 10 回以下の 56 語、社会科学は使用頻度 16 回以下の 57 語、文学は使用頻度 89 回以下の 104 語が対象となる。

次に、統語的複合動詞を抽出するに当たって検索対象から外した語があるので、その理由とともに具体的な語を以下に挙げる。

・前項動詞が意図的な動作を表さない語：
　　照りつける、照らしつける、吹きつける、降りつける
・意味的に一語化していると考えられる語：ありつける、あてつける
・音便化によって前項動詞が接頭辞化していると考えられる語[4]
　　押っつける、ぶっつける、引っつける、踏んづける、張っつける
・俚言として使われる語：込みつける
・古語：語彙素「慣つける（なれつける）」
・BCCWJ の資料原文の誤り：「開きつける」（誤）→「聞きつける」
・複合動詞「～つく」の可能形と命令形[5]の用法のみで使用されている語。以下にジャンルごとに語を挙げる[6]。なお、可能形と命令形以外の用法が混在している語は表 2 に入れた。（　）内は使用頻度。

文学：追いつける（50）、辿りつける（72）、思いつける（17）、帰りつける（4）、噛みつける（2）、考えつける（1）、しがみつける（2）、住みつける（1）、辿りつける（72）、飛びつける（2）、泣きつける（1）、寝つける（32）

自然科学系（含技術・工学）：追いつける（6）、食いつける（1）、住みつける（1）、飛びつける（1）、寝つける（7）

社会科学：行きつける（1）帰りつける（1）、しがみつける（1）、寝つける（4）

上記の語を調査対象から外して使用頻度を調べた上で、Ⅱで挙げた姫野（1999）による複合動詞の意味特徴を加え、意味特徴順に整理したものを表 2 として示す。なお、複数の意味特徴で出現した語は意味特徴欄に「/」印で併記した。

調査の結果、統語的複合動詞は、自然科学系（含技術・工学）ジャンルでは 2 語 4 例、文学ジャンルでは 14 語 19 例、社会科学ジャンルでは出現がなかった。

以下にジャンルごとに実際の統語的複合動詞の使用例を挙げる。なお、使用例は該当部分を含む一部を引用し、用例が使われた時代がわかるよう

に、執筆者名、執筆者の生年代、出典も合わせて記した。

### （1） 自然科学系（含技術・工学）

統語的複合動詞は 2 語で、「食べつける」3 例、「飲みつける」1 例である。4 例とも「技術・工学」ジャンルの例で、2 名の著者によるものであった。

①食べつける　3 例

・魚介類を食べつけている日本人でも、三陸沿岸あたりの漁村に旅して、食べつけないホヤを勧められて閉口する人だっているようなものである。

西岡秀雄 1910『味でさぐる世界の文化』

・レストランに慣れないうちはともかく、ある程度食べつけてレストランのルールがわかってきたら、…。　石垣憲一 1970『五本でできるカクテル』

②飲みつける　1 例

・カクテルも、同じです。ある程度飲みつけるまでは適量がわからず、締めくくりの一杯までたどり着けぬまま酔っぱらってしまうこともあるかもしれません。

石垣憲一 1970『五本でできるカクテル』

### （2） 文学ジャンル

統語的複合動詞は 14 語で、使用状況は以下の通りである。

4 例　食べつける

2 例　飲みつける、やりつける [7]

1 例　行きつける（12 例中 1 例）、食いつける、吸いつける（26 例中 1 例）、渡りつける（2 例中 1 例）、扱いつける、かかりつける、我慢しつける、駐車しつける、入りつける、持ちつける、読みつける

①食べつける 4 例

・自分が平常、食べつけないもの、やりつけないことにかなりひどい拒否反応を起す。　平岩弓枝 1930『極楽とんぼの飛んだ道』

・普段、食べつけていないものを受け入れるのに時間がかかりすぎたと…。

平岩弓枝 1930『極楽とんぼの飛んだ道』

・食べつけないポリッジやオートケーキで痛めつけられた腸が、粗末な屋外食でついに音をあげたのだ。

ダイアナ・ガバルドン／加藤洋子 1950『時の彼方の再会』

・この香草はかなり匂いがきついので日本人では嫌がる人も多いが、食べつけると

表2　BCCWJ 頻度順位第 36 位以下の複合動詞「～つける」とその意味特徴

| | 文学 | | | 自然科学系（含技術・工学） | | | 社会科学 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 複合動詞 | 頻度 | 意味特徴 | 複合動詞 | 頻度 | 意味特徴 | 複合動詞 | 頻度 | 意味特徴 |
| 1 | 潜ぎつける | 37 | 1.1 場所への到達 | 乗りつける | 5 | 1.1 場所への到達 | 乗りつける | 12 | 1.1 場所への到達 |
| 2 | 乗りつける | 50 | 1.1 場所への到達 | 編みつける | 5 | 1.2 対象への接着・密着 | 馳せつける | 1 | 1.1 場所への到達 |
| 3 | 馳せつける | 11 | 1.1 場所への到達 | かがりつける | 2 | 1.2 対象への接着・密着 | 生みつける | 3 | 1.2 対象への接着・密着 |
| 4 | 行きつける | 12 | 習慣／＊ | 書きつける | 10 | 1.2 対象への接着・密着 | 飾りつける | 3 | 1.2 対象への接着・密着 |
| 5 | 植えつける | 87 | 1.2 対象への接着・密着 | 飾りつける | 10 | 1.2 対象への接着・密着 | 刻みつける | 6 | 1.2 対象への接着・密着 |
| 6 | 振りつける | 83 | 1.2 対象への接着・密着 | 刻みつける | 3 | 1.2 対象への接着・密着 | 括りつける | 10 | 1.2 対象への接着・密着 |
| 7 | 書きつける | 76 | 1.2 対象への接着・密着 | 組みつける | 10 | 1.2 対象への接着・密着 | 組みつける | 4 | 1.2 対象への接着・密着 |
| 8 | 焼きつける | 57 | 1.2 対象への接着・密着 | すりつける | 2 | 1.2 対象への接着・密着 | こすりつける | 3 | 1.2 対象への接着・密着 |
| 9 | 刻みつける | 52 | 1.2 対象への接着・密着 | 添えつける | 1 | 1.2 対象への接着・密着 | 据えつける | 9 | 1.2 対象への接着・密着 |
| 10 | 射つける | 1 | 1.2 対象への接着・密着 | 備えつける | 6 | 1.2 対象への接着・密着 | すりつける | 4 | 1.2 対象への接着・密着 |
| 11 | 鋳つける | 1 | 1.2 対象への接着・密着 | 染めつける | 1 | 1.2 対象への接着・密着 | 焚きつける | 4 | 1.2 対象への接着・密着 |
| 12 | 生みつける | 7 | 1.2 対象への接着・密着 | 焚きつける | 1 | 1.2 対象への接着・密着 | 作りつける | 1 | 1.2 対象への接着・密着 |
| 13 | 飾りつける | 13 | 1.2 対象への接着・密着 | 作りつける | 1 | 1.2 対象への接着・密着 | 止めつける | 1 | 1.2 対象への接着・密着 |
| 14 | 結みつける | 5 | 1.2 対象への接着・密着 | 綴じつける | 2 | 1.2 対象への接着・密着 | なすりつける | 8 | 1.2 対象への接着・密着 |
| 15 | 着せつける | 1 | 1.2 対象への接着・密着 | なすりつける | 6 | 1.2 対象への接着・密着 | 縫いつける | 5 | 1.2 対象への接着・密着 |
| 16 | 振りつける | 37 | 1.2 対象への接着・密着 | 祭りつける | 4 | 1.2 対象への接着・密着 | 塗りつける | 7 | 1.2 対象への接着・密着 |
| 17 | 差しつける | 1 | 1.2 対象への接着・密着 | 結わえつける | 3 | 1.2 対象への接着・密着 | 彫りつける | 1 | 1.2 対象への接着・密着 |
| 18 | 据えつける | 46 | 1.2 対象への接着・密着 | 切りつける | 1 | 1.3.1 物理的接触 | 盛りつける | 8 | 1.2 対象への接着・密着 |
| 19 | 備えつける | 43 | 1.2 対象への接着・密着 | 吸いつける | 4 | 1.3.1 物理的接触 | 焼きつける | 10 | 1.2 対象への接着・密着 |
| 20 | 焚きつける | 23 | 1.2 対象への接着・密着 | 叩きつける | 1 | 1.3.1 物理的接触 | 結わえつける | 3 | 1.2 対象への接着・密着 |
| 21 | 作りつける | 6 | 1.2 対象への接着・密着 | 投げつける | 9 | 1.3.1 物理的接触 | 割りつける | 1 | 1.2 対象への接着・密着 |
| 22 | 綴じつける | 1 | 1.2 対象への接着・密着 | 言いつける | 1 | 1.3.2 対人行為接触 | 切りつける | 11 | 1.3.1 物理的接触 |
| 23 | 止めつける | 7 | 1.2 対象への接着・密着 | 売りつける | 2 | 1.3.2 対人行為接触 | 吸いつける | 1 | 1.3.1 物理的接触 |
| 24 | 縫いつける | 30 | 1.2 対象への接着・密着 | 送りつける | 10 | 1.3.2 対人行為接触 | 吐きつける | 1 | 1.3.1 物理的接触 |
| 25 | 塗りつける | 34 | 1.2 対象への接着・密着 | 買いつける | 3 | 1.3.2 対人行為接触 | 浴びせつける | 1 | 1.3.2 対人行為接触 |
| 26 | 振りつける | 1 | 1.2 対象への接着・密着 | 貸しつける | 2 | 1.3.2 対人行為接触 | 仰せつける | 1 | 1.3.2 対人行為接触 |
| 27 | 彫りつける | 8 | 1.2 対象への接着・密着 | 振りつける | 1 | 1.3.2 対人行為接触 | 説きつける | 1 | 1.3.2 対人行為接触 |
| 28 | 盛りつける | 23 | 1.2 対象への接着・密着 | 見せつける | 9 | 1.3.2 対人行為接触 | 振りつける | 2 | 1.3.2 対人行為接触 |
| 29 | 結わいつける | 2 | 1.2 対象への接着・密着 | 申しつける | 1 | 1.3.2 対人行為接触 | 申しつける | 8 | 1.3.2 対人行為接触 |
| 30 | 結わえつける | 13 | 1.2 対象への接着・密着 | 呼びつける | 3 | 1.3.3 主体者近接 | 呼びつける | 12 | 1.3.3 主体者近接 |
| 31 | 割りつける | 3 | 1.2 対象への接着・密着 | まぶしつける | 5 | 1.3 対象への接着・密着 | 寄せつける | 9 | 1.3.3 主体者近接 |
| 32 | 吸いつける | 26 | 1.2 対象への接着・密着／習慣／＊ | 炒りつける | 1 | 2.1.1 物理的接触 | 殴りつける | 14 | 2.1.1 物理的接触 |
| 33 | 叩きつける | 2 | 1.3.1 物理的接触 | 着つける | 7 | 2.1.1 物理的接触 | 擦ねつける | 12 | 2.1.1 物理的接触 |
| 34 | 吐きつける | 7 | 1.3.1 物理的接触 | 殴りつける | 2 | 2.1.1 物理的接触 | 炒りつける | 1 | 2.1.1 物理的接触 |
| 35 | 放りつける | 2 | 1.3.1 物理的接触 | 撫でつける | 3 | 2.1.1 物理的接触 | 押さえつける | 1 | 2.1.1 物理的接触 |
| 36 | 送りつける | 59 | 1.3.2 対人行為接触 | 煮つける | 4 | 2.1.1 物理的接触 | 着つける | 2 | 2.1.1 物理的接触 |
| 37 | 申しつける | 57 | 1.3.2 対人行為接触 | はねつける | 2 | 2.1.1 物理的接触 | 蹴りつける | 1 | 2.1.1 物理的接触 |
| 38 | 売りつける | 54 | 1.3.2 対人行為接触 | 叱りつける | 5 | 2.1.2 対人行為接触 | 梳かしつける | 1 | 2.1.1 物理的接触 |

表 2　続き

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 39 | 仰せつける | 19 | 1.3.2 対人行為接触 | 怒鳴りつける | 4 | 2.1.2 対人行為接触 | 撫でつける | 2 | 2.1.1 物理的接触 |
| 40 | 買いつける | 13 | 1.3.2 対人行為接触 | どやしつける | 1 | 2.1.2 対人行為接触 | 煮つける | 7 | 2.1.1 物理的接触 |
| 41 | 貸しつける | 14 | 1.3.2 対人行為接触 | 睨みつける | 8 | 2.1.2 対人行為接触 | 怒鳴りつける | 16 | 2.1.2 対人行為接触 |
| 42 | 説きつける | 5 | 1.3.2 対人行為接触 | 寝かしつける | 7 | 2.1.2 対人行為接触 | 脅しつける | 2 | 2.1.2 対人行為接触 |
| 43 | 振りつける | 2 | 1.3.2 対人行為接触 | いためつける | 10 | 2.1.2 対人行為接触／<br>2.1.1 物理的接触 | どやしつける | 1 | 2.1.2 対人行為接触 |
| 44 | 弁じつける | 1 | 1.3.2 対人行為接触 | 嗅ぎつける | 2 | 2.2 対象の補足 | 寝かしつける | 7 | 2.1.2 対人行為接触 |
| 45 | 渡りつける | 2 | 習慣／＊ | 聞きつける | 7 | 2.2 対象の補足 | いためつける | 15 | 2.1.2 対人行為接触／<br>2.1.1 物理的接触 |
| 46 | 寄せつける | 55 | 1.3.3 主体者近接 | 食べつける | 3 | 習慣 | 聞きつける | 16 | 2.2 対象の補足 |
| 47 | 寄りつける | 1 | 1.3.3 主体者近接 | 飲みつける | 1 | 習慣 | 嗅ぎつける | 5 | 2.2 対象の補足 |
| 48 | まぶしつける | 2 | 1.3 対象への接着・密着 | | | | | | |
| 49 | 踏みつける | 77 | 2.1.1 物理的接触 | | | | | | |
| 50 | はねつける | 59 | 2.1.1 物理的接触 | | | | | | |
| 51 | 炒りつける | 1 | 2.1.1 物理的接触 | | | | | | |
| 52 | 抉りつける | 1 | 2.1.1 物理的接触 | | | | | | |
| 53 | 着つける | 3 | 2.1.1 物理的接触 | | | | | | |
| 54 | 蹴りつける | 30 | 2.1.1 物理的接触 | | | | | | |
| 55 | 梳かしつける | 1 | 2.1.1 物理的接触 | | | | | | |
| 56 | 梳きつける | 1 | 2.1.1 物理的接触 | | | | | | |
| 57 | 煮つける | 2 | 2.1.1 物理的接触 | | | | | | |
| 58 | 抜きつける | 2 | 2.1.1 物理的接触 | | | | | | |
| 59 | 挟みつける | 15 | 2.1.1 物理的接触 | | | | | | |
| 60 | ねめつける | 53 | 2.1.2 対人行為接触 | | | | | | |
| 61 | 怒りつける | 1 | 2.1.2 対人行為接触 | | | | | | |
| 62 | 脅しつける | 16 | 2.1.2 対人行為接触 | | | | | | |
| 63 | 構いつける | 3 | 2.1.2 対人行為接触 | | | | | | |
| 64 | 急かしつける | 1 | 2.1.2 対人行為接触 | | | | | | |
| 65 | 責めつける | 4 | 2.1.2 対人行為接触 | | | | | | |
| 66 | どやしつける | 19 | 2.1.2 対人行為接触 | | | | | | |
| 67 | 寝かせつける | 28 | 2.1.2 対人行為接触 | | | | | | |
| 68 | 煽りつける | 1 | 2.3 状態移行 | | | | | | |
| 69 | 扱いつける | 1 | 習慣 | | | | | | |
| 70 | 掛かりつける | 1 | 習慣 | | | | | | |
| 71 | 我慢しつける | 1 | 習慣 | | | | | | |
| 72 | 食いつける | 1 | 習慣 | | | | | | |
| 73 | 食べつける | 4 | 習慣 | | | | | | |
| 74 | 駐車しつける | 1 | 習慣 | | | | | | |
| 75 | 飲みつける | 2 | 習慣 | | | | | | |
| 76 | 入りつける | 1 | 習慣 | | | | | | |
| 77 | 持ちつける | 1 | 習慣 | | | | | | |
| 78 | やりつける | 2 | 習慣 | | | | | | |
| 79 | 読みつける | 1 | 習慣 | | | | | | |

注）複数の意味特徴を持つ場合は「／」で併記した。「／＊」は複合動詞以外の用法が混在する場合を示す。

やめられない。　開高健 1930『風に訊け』

②飲みつける 2 例

・モチロン振舞酒を飲みつけぬシャンパンの余勢も手伝ったではあろうが…。

薩摩治郎八 1900『洋酒天国』

・葬式の帰りに町内の者と共に山谷の鮒儀へ立ち寄りて飲みつけぬ酒に酔も早く…。

中野三敏 1930『風刺文学集』

③やりつける 2 例

・両方の面倒をみるのは、さほど大したことではなさそうだが、やりつけないことなので、うっかりすると失念する。　岡田睦 1930『文学』

・自分が平常、食べつけないもの、やりつけないことにかなりひどい拒否反応を起す。　平岩弓枝 1930『極楽とんぼの飛んだ道』

④扱いつける 1 例

・それが何うかすると、自分の子供を沢山扱ひつけてゐるS―の神経を苛々させたが、…。　徳田秋聲 1870『徳田秋聲全集第 12 巻』

⑤行きつける 1 例

・中野は、洋楽のコンサートに行きつけているが、高柳には生まれて初めての体験であった。

瀧井敬子 1940『漱石が聴いたベートーヴェン／音楽に魅せられた文豪たち』

⑥かかりつける 1 例

・和助は飼い犬を玄以にかかりつけていたとき、玄以のところで勘助を見かけたのかもしれねえな。　森村誠一 1930『流行心中』

⑦我慢しつける 1 例

・言いたいことを半分しか言わずに我慢しつけている伝十郎にはありがたい女房なのである。　山手樹一郎 1890『雪の駕籠』

⑧食いつける 1 例

・モルティメ夫妻が、もっと腹にもたれる食物を食いつけているウージェーヌたちの胃のせいで完全には消化されず、…。

ジャン・コクトー／澁澤龍彦 1880／1920 『ポトマック』

⑨吸いつける　1 例（26 例中）

・いざや出掛けませうと吸いつけない葉巻をくはえて鞄をシコタマ擔いでステンションへ…。

高野正雄／益田太郎冠者 1930／1870『喜劇の殿様／益田太郎冠者伝』

⑩駐車しつける 1 例

•…六区の北隅のいつも駐車しつけている有料のフロアへ、車を入れた。

田久保英夫 1920 『仮装』

⑪入りつける 1 例

•いつもはいりつけている丹前風呂だけに、出雲守は、のうのうとした心地でいるらしい。 村上元三 1910 『水戸黄門』

⑫持ちつける 1 例

•玉（璧）のような、持ちつけない貴重なものを持つと、本来、罪のない者も禍いを招く、…。 夏目漱石 1860 『吾輩は猫である』

⑬読みつける 1 例

•ふだん候文を読みつけない良子は、苦労してそれを読み終えた。

西木正明 1940 『凍れる瞳』

⑭渡りつける 1 例

•白刃渡り、火縄抜け、危い橋は渡りつけている一騎当千の女武者だ。

横溝正史 1900 『髑髏検校』

以上、本調査において抽出された統語的複合動詞は、異なり語数 14 語、総数 23 例という結果であった。

## Ⅳ. 考察

姫野（1999:118）ではよく使われる統語的複合動詞として以下の 10 語が挙げられている。

行きつける、使いつける、やりつける、飲みつける、食べつける、
読みつける、持ちつける、履きつける、乗りつける、運転しつける等

Ⅲの調査結果を上記 10 語と対照してみると、「使いつける、乗りつける、履きつける」の 3 語の例は出現がなかったものの、それ以外は重複している（サ変動詞の「運転しつける」はなかったが、「我慢しつける」、「駐車しつける」が抽出された）。このことからも、統語的複合動詞は実際、頻度が高い語はかなり限られていると推測される。

本調査でも、自然科学系の「技術・工学」ジャンルと「文学」ジャンルの二つのジャンルを合わせて、「食べつける」が合計 6 例で最多で、次が合計 3 例の「飲みつける」であった。また、「文学」ジャンルの「食いつける（1 例）」も意味的には「食べつける」と同義だと言えるので、統語的複合動詞「～つける」の代表例は「食べつける」だと言ってよさそうである。

本調査で統語的複合動詞として抽出された 14 語のうち 11 語は統語的複合動詞としての用法のみであったが、残りの 3 語「行きつける」、「吸いつける」、「渡りつける」には、統語的複合動詞以外の用法が混在していた。同じ形態を持つ語が多義性を持つことは、学習者にとって混乱の要因となることは言うまでもない。意味の混同が起きると想定されるのは次の三つの場合である。

（1）複合動詞「～つく」の可能形の場合[8]

（Ⅲで既に調査対象から除外した語を挙げた）

（2）語彙的複合動詞の場合

（3）統語的複合動詞の場合

用法が混在していた 3 語（行きつける、吸いつける、渡りつける）の個別分析を行う前に、上記（1）～（3）の場合について、指導時の留意点なども含めて以下に整理しておく。

### （1） 複合動詞「～つく」の可能形の場合

本調査で複合動詞「～つける」の抽出時に、あらかじめ複合動詞「～つく」の可能形の用法と解される語を除いたのは、「～つける」の用例の中に多くの「～つく」の可能形が混在していたためである。これらの語は文脈から可能形だと判断できる場合が多いが、学習者は意識してその区別をする必要があるので、指導時にはこの点について指摘が必要であろう。本調査で可能形・命令形としてのみ使われていた以下の語群はその代表例だと言えよう。（　）内は使用頻度。

追いつける（50）、辿りつける（72）、寝つける（32）、思いつける（17）

### （2） 語彙的複合動詞の場合

統語的複合動詞は、普通、数多くの語彙的複合動詞の中にわずかに混在する状況だと言える。姫野（1999）の分類からもわかるように語彙的複合動詞「～つける」の意味特徴は多岐にわたり、多くの複合動詞についてそれを個別に勉強するのは、学習者にとっては大きな負担となるので、その意味でも簡潔で明快な説明が求められよう。

V–V 型複合動詞については、影山（1993）が生成文法理論に基づく語形成論の立場から詳細な分析を行っている。本稿は生成文法理論による分析を目指すものではないが、その分析方法や結果を利用して説明がつくものについては、それを参考にして、複合動詞「～つける」の用法のより明確な記述を試みたいと思う（以下、前項動詞を V1、後項動詞を V2 で記す）。まず V2「つける」の働きについては、影山（1993: 123–125）の V2「～つく」の分析に倣って整理してみる。

V2「つける」は、自動詞にも他動詞にも付き、「x を y につける」という構文を形成する。V2「つける」は、V1 に示される動作の結果、その対象を移動させた先の位置を表す。V1 が他動詞で、位置変化を表すニ格を取らない動詞、例えば「押す」、「叩く」、「縫う」の場合、V1 自体では対象の移動を意味しないが、「つける」が付くことで、その動作によって到達した位置を付加する働きを持つ。

例　額に銃口を押しつけた。床に鞄を叩きつけた。上着にポケットを縫いつけた。

上記の 3 例では、額に銃口を押しつけると銃口の位置は額上に移り、床に鞄を叩きつけると鞄の位置は床の上に移動し、上着にポケットを縫いつけるとポケットは上着に付いている、というように、V1 は位置変化の意味を持たなくても、V2「つける」によって、複合動詞全体として位置を変化させる動詞に変わり、ニ格によって位置の変化先（接触先）が示され

る。ちなみに、本調査で用法が混在していた 3 語中の 1 語「吸いつける」はこのグループに属する。

このように、V2「つける」の場合には、V2「つく」の場合とは異なり、他動詞 V1 のヲ格目的語と「つける」が持つニ格目的語がどちらも現れてくることが特徴だと言える。

次に、V1 が他動詞でそれ自体が位置変化を意味する動詞の場合を見てみる。

例　公園に桜の苗木を植えつける。メモに電話番号を書きつけた。皿におかずを盛りつける。

上記の 3 例では、V1 は意図的な使役動作になるので、「公園に桜を植える」、「メモに電話番号を書く」、「皿におかずを盛る」というように場所表現を作ることができる。そこに「つける」が付くことによって、移動した先の位置を表す場所表現が更に重なるため、「公園に桜の苗木を植えつける」では「植える」を、「メモに電話番号を書きつけた」では「書く」を、「皿におかずを盛りつける」では「盛る」を強調すると解される。また、V1 が「植える、書く、盛る」などの継続動詞の場合は、「つける」がつくことによって、複合動詞全体が達成動詞に変化するので、V2 のアスペクト特性が優先されると考えられる。

次に、V1 が他動詞ではなく、「どなる」のような自動詞の場合を考えてみる。この場合も、V2「つける」によって、複合動詞全体は他動詞として働くので、目的語のヲ格が現れ、「どなる」の対象者はヲ格で表される。

姫野（1999:116）の分類では、「どなりつける」は【2.「に」をとらぬもの】として「2.1. 強調」の「2.1.2 対人行為接触」に分類されている。本調査で抽出された例でも、その大半は「どなる」対象がヲ格で表されているが、以下のようにニ格で表す例も 3 例抽出されている。文学の例は L、社会科学の例は S で示す。

L1：この場にいない来村に怒鳴りつけて、語尾が沈んだ後、鼻をすする音が聞こえた。

S1：呆然としている僕に上官が怒鳴りつけてきた。

S2：隣の席の男に手をひっこめるようにどなりつけたので、…。

このニ格を取る例についてはどのように考えたらよいだろうか。

L1 の例では、ニ格を使うことで「この場にいない」という間接的な意味合いが出せると考えられる。S1 例は文末の「～てきた」によって対象への接近の意味が表されるので、上官がすごい剣幕で接近してきて怒鳴りつけたという場面としては、方向と「どなる」行為の到着点を表せる二格の方がヲ格より適当だと言えよう。S3 の例では、主体の「どなりつける」行為とその対象者である「隣の席の男」の間に、どなりつけた内容が「手をひっこめるように」という従属節で入っていることから、ニ格が現れたのではないかと考えられる。

この「2.1. 強調」に挙げられた語の中には、ほかにもニ格が現れている語「押さえ付ける」がある。次の例はその例である。

L2：「つまりだね、例えば君をあそこに押さえつけて、扉に挟ませたというようなことさ。」

L3：黄飛虎はそのまま趙丙を神牛の背上に押さえつけて、城に引き揚げた。

この「押さえつける」については、姫野自身も「手で犬を押さえつける：手と犬と地面の強い接触」と説明している。この例では、接触先が地面なので、「手で犬を地面に押さえつける」というようにニ格が使えると思われる。

このように考えると、上記の実例に現れたニ格は「つける」自体が構造的に持つニ格が表に現れた例だと考えられないだろうか。つまり、「どなりつける」は、「どなる」という主体の行為が「つける」によって行為の対象者へと移動し、そこで「達成」されるとみなすことができる。「押さ

えつける」の場合は、既に説明した「押す」、「叩く」などの場合と同様、「押さえる」自体はニ格を取らない他動詞であるが、「つける」と複合動詞化することで構造的にニ格が取れるようになると考えられる。主体が対象の犬を手で「押さえた」結果、犬の体の位置が変化し、ニ格がその位置変化先（接触先）の「地面」を表すと理解できる。

一方、自動詞「どなる」の場合はニ格が現れるが、V1 が「叱る」、「脅す」などの他動詞の場合は、もともとヲ格を取るので複合動詞化してもヲ格がそのまま目的語としての行為の対象者を表す。実例を見ても行為の対象者は常にヲ格で示され、ニ格は現れていない。この場合、ニ格による位置変化の意味が表に現れないのは、位置変化先である対象者がすでにヲ格で明示されているためではないかと考えられる。その結果、V1 他動詞の行為自体が「つける」が持つ「達成」の意味によってより強調されると解される。

最後に、V1 が移動動詞の場合について見てみる。姫野（1999）では「1.1 場所への到達」として独立した一つの項目として立てられている。影山（1993）でも「込む」の分析で、V1 自体が移動を表す場合と単純な動作を表す場合とが区別されている。その理由は、V1 が移動動詞の場合は、他の動詞とは異なり、V1 が自動詞でも他動詞でも「つける」と複合動詞化した場合に自動詞として働くためだと考えられる。また、V1 が移動動詞の場合は、用字も「～着ける」になることが多い。

例えば、移動動詞「乗る」、「馳せる」、「漕ぐ」が「つける」と複合動詞化すると、「つける」の対象は V1 の主語に当たり、主語は意図的に移動して位置を変化させ、移動先である到着点はニ格で表される。V1 は、「乗りながら（目的地に）到着する」、「馳せながら＝走りながら（目的地に）到着する」、「漕ぎながら（目的地に）到着する」というように到着までの様相を表し、V2「つける（着ける）」は移動動作の達成を表すと考えられる。

### （3） 統語的複合動詞「～つける」の場合

森田（1977）は、統語的複合動詞「～つける」について、「～なれる」と比較しつつ、次のように説明している。

> 「―つける」は“たびたび行われた結果、行為そのものにやり慣れる”こと。「―なれる」のような対象への順応意識はない。「―なれる」は年中その対象に接した結果、その対象が自分にとっては慣れた対象であるという特殊性を帯びてしまう。（中略）一方、「―つける」は行為に慣れることなので、「歩きつけた道」「呼びつけた名前」のような言い方はぴったりしない。「私はふだん歩きつけているから、五キロや十キロ歩かされても平気です」のように用いる。同様「見慣れる」も「見慣れた顔」はよいが、「見つけた顔」とはふつう言わない。「ふだん外国人を見つけているので、ちっとも違和感を覚えません」のように、行為の平常性に用いる。「買いつけの店」「かかりつけの医者」と名詞に係る形式も持つが、これも“必要なときはいつも必ずそうする”“しょっちゅう…する”意で、行為に焦点を合わせた言い方である（森田 1977: 363）

つまり、統語的複合動詞「～つける」は行為に焦点を合わせた言い方で、行為者が対象に慣れることを意味するのではなく、行為者にとってその行為が平常性を持つことを示す意味だと述べている。

この森田の分析に、影山（1993）は生成文法理論から解釈を与えていると考えられる。影山は（1993: 141）は、統語的複合動詞「～つける」について、「食べつける」が「＊早く食べつけろ！」のような命令形にならないことから、その主語が意図的な動作主とは見なせないと述べ、その主語の役割については議論の余地があるが、おそらく、経験者（Experiencer）が該当するだろうとしている。また、無生物を主語として「＊新幹線が遅れつけている」のような文を作ることも不可能であることから、主語に対して何らかの意味役割の制限が加えられる場合を他動詞型補文構造と考えると述べ、V2「～つける」を他動詞型補文構造のみを持つグループに分類している。

ここで、姫野（1999）、森田（1977）、影山（1993）らの先行研究の成果を踏まえて、統語的複合動詞「～つける」の用法と意味特徴を整理すると以下のようになろう。

統語的複合動詞「～つける」は意図的動作を表す V1 動詞と結びつき、複合動詞化すると「習慣」の意味を表す。V1 が他動詞の場合は複合動詞化しても他動詞として働き、V1 が自動詞の場合は複合動詞化しても自動詞として働く。習慣的に反復される行為自体に焦点があり、例えば「食べつける」は「X を食べることがよく行われる」、「やりつける」は「X をやることがよく行われる」という意味になる。そのため、その主語には意図的な動作主は来ず、主語は「経験者」のような役割を持つと考えられる。

最後に、本調査で用法が混在していた 3 語（「行きつける」、「吸いつける」、「渡りつける」）について各語の使用状況を詳しく見ていく。

**①行きつける**

「行きつける」の使用例の内訳を見ると、合計 12 回のうち 11 回が「行き着く」の可能形「行き着ける」としての出現で、表 2 に挙げた「行きつける」の中で統語的複合動詞は 1 例のみであった。

「行きつける」についての留意点としては、「行く」が初級レベルでは移動動詞として導入されるので、姫野（1999）による語彙的複合動詞の分類「1.1 場所への到着」の用法と混同される可能性があると言える。姫野（1999）、影山（1993）による V1 移動動詞の分析からもわかるように、語彙的複合動詞の場合には、V1 が V2 の移動の様相を表すという意味特徴がある。しかし、「行きつける」の場合は、V1「行く」は移動の様相を表さない。このことから、「行き着ける」は語彙的複合動詞の用法は持たないと考えられる。本調査の例を再掲する。

・中野は、洋楽のコンサートに行きつけているが、高柳には生まれて初めて体験であった。

つまり、この例では統語的複合動詞の意味的構造は補文構造になるので、「〔(中野が）洋楽のコンサートに行き〕つけること」のように理解できよう。この例と似た例として、「入りつける」と「渡りつける」が挙げられる。この 2 例も以下に再掲する。

・いつもはいりつけている丹前風呂だけに…。
・白刃渡り、火縄抜け、危い橋は渡りつけている一騎当千の女武者だ。

V1「入る」、「渡る」は移動動詞と言えるが、「行く」と同様、「つける」と複合動詞化しても移動の様相を表さない。したがって、「入りつける」、「渡りつける」は統語的複合動詞として解され、意味的構造は、それぞれ、「〔(X が）丹前風呂に入り〕つけること」、「〔(X が）危ない橋を渡り〕つけること」と分析できよう。なお、「渡りつける」については他の用法で 1 例抽出されているが、その例については③で触れる。

**②吸いつける**

「吸いつける」は文学ジャンル 26 例、自然科学系（含技術・工学）ジャンル 4 例、社会科学ジャンル 1 例というように三つのジャンル合わせて 31 例が抽出された。このうち統語的複合動詞は文学ジャンルの 1 例のみであった。このほかの 30 例のうち、自然科学系ジャンルの 2 例は複合動詞「吸いつく」の可能形で、それ以外が語彙的複合動詞であった。「吸いつける」は相対的に使用頻度が高い語なので、語彙的複合動詞についても、ここでその意味特徴を整理しておく。

「吸いつける」は、姫野（1999）では、「1.3.1 物理的接触」に分類され、複合動詞化しても他動詞として働く。「吸う」はニ格を取らないので、V2「つける」と複合動詞化することで、「～に～を吸いつける」の構造を持つと考えられる。

本調査で抽出された語彙的複合動詞「吸いつける」を見ると、その意味特徴から大きく二つに分けられる。A：「人が X に Y を吸いつける」場合

とB：「X（磁石などのモノ）がYを吸いつける」場合である（用例は紙幅の都合により代表的なものを抜粋）。

**A.「人がXにYを吸いつける」**

a. 人がたばこに（火を）吸いつける

・源昌房はたばこに火を吸いつけて、悠々たる姿勢をつくっていう。

・桑原は煙草を吸いつけ、二宮は金と注文書を持つ。

・私はたばこを吸いつけて、切り出した。

・いくら吸いつけても煙が古橋の口の中へやってこないのである。

・…葉山はそっと頤で芸者を指したが、姫松は煙草を吸付けていたので知らずにいる。

a例は、本来は「（人が）たばこに火を吸いつける」という構造を持つと考えられるが、火が省略され、「たばこを吸いつける」という表現になったと推測される。この形は9例抽出され、最多であった。

b. 人がX（身体部位）にY（X以外の身体部位）を吸いつける

・いかなる不安定な足場でも、ぴたりと蹠を吸いつける技を持つ。

b例は人が意図的に身体部位同士を接触させる意味で3例あった。そのうち2例は「口にYを吸いつける」という意味で、残り1例は上記の例で、足裏をぴたりと合わせる様子を比喩的に表す例であった。

c. 人がXに目を吸いつける／人がXに目を吸いつけられるXが人の目を吸いつける／人の目がXに吸いつけられる

・ …メリーゴーランドという遊具がありますが、（略）下で寝ていた幼児はこれを見て、目はすいつけられてしまいます。

・ その刃紋を見ていると吸いつけられるような気がする。

・ 紗南の瞳はシャーペンに吸いつけられた。

・ 眼は窓に吸いつけられている。

・ 三郎の眼を吸いつけるように見つめた。

c 例は 7 例抽出された。比喩的に用いられ、そのうち 6 例は「持ち主受身」の形で使われていた。指導の際には、語彙的複合動詞としての「～に～を吸いつける」の構造以外に、持ち主受身の態の変換も入るので、助詞「に」の働きについて注意が必要である。

**B. X（磁石など）が Y を吸いつける／Y が X に吸いつけられる**

- …鉄の粉を吸い付けるマグネットプラグとしています。
- 炭だから灰あくと一緒で、アクを吸い付ける。
- 遠くからこの山を望見した人間が、この山と知って吸いつけられるようにやって来て
- 朝の空気に吸いつけられたように、縁側に出た。
- 妖しく昂奮を盛り上げてゆく柵の中の闘争に吸いつけられて、時間のことなど雲散る霧消し、
- 寝殿での、あの、すべてを吸いつけるような肉体が、伽藍のなかでは、いったいどういう具合に置かれているのか、

B 例は 9 例抽出された。具体的場面よりも比喩的に「人が何かに吸いつけられる」という意味で用いられ、受身形の例が多かった。

統語的複合動詞「～つける」は人の習慣の意味を表すので、A の意図的動作の用法と混同する可能性がありそうだが、以下のように、抽出された統語的複合動詞の例（1 例のみ）は否定形の例であった。

- いざや出掛けませうと吸いつけない葉巻をくはえて鞄をシコタマ擔いでステンションへ…。

否定形の場合は統語的複合動詞との意味の混同は起こらないと考えられる。その理由は語彙的複合動詞「吸いつける」の否定形は「吸いつけない」となり、「吸いつく」の可能形として解されるからである。唯一、学習者にとって意味の混同が起きそうな例は、上記の A. の a 例の「姫松は煙草を吸付けていたので」であろう。動詞が持続態になっているため、動詞部

分だけを見ると統語的複合動詞のようにも見えるが、文脈から「煙草を吸付けていた」主語は姫松で、煙草を吸付けている動作は意図的動作だとわかるので、「吸付けていた」は動作の進行形だと判断できよう。

**③渡りつける**

「渡りつける」は①で述べたように 1 例が統語的用法で、もう 1 例が以下の例であった。

・いつの間にそんな奴と渡りつけたんだかしらねえが、洒落たまねしてくれるじゃねえか。

この例は、「（人と）渡りをつける」、つまり「（人と）連絡をつける」という意味である。この例は口語であることを考えると、ヲ格が落ちて「渡りつける」というように一語化しているように見えるので、複合動詞として抽出されたと考えられる。この例を除くと、本調査で抽出された統語的複合動詞の例は 1 例のみとなる。

以上、本調査で他の用法が混在していると考えられた 3 語も、使用状況を詳しく見ると、そのうち 2 語は統語的複合動詞の用法のみでの出現だということがわかった。したがって、「吸いつける」だけが上記（1）～（3）の用法が混在している語ということになるが、その統語的複合動詞の例は古語の 1 例のみで、現代語の例ではなかった。

ここで、本調査で抽出された統語的複合動詞 14 語 23 例にもう一度戻り、使用形態を見ると以下のようになる。使用頻度 2 回以上の語は頻度も（　）内に記す。

食べつける（否定形 4 例、肯定形 3 例：持続態、連用形、辞書形）
飲みつける（否定形 2 例、肯定形 1 例：辞書形）
やりつける（否定形 2 例）
食いつける（肯定形：持続態）、扱いつける（肯定形：持続態、古語）、我慢しつける（肯定形：持続態）、吸いつける（否定形）、持ちつける（否定形）、読みつ

ける（否定形）、かかりつける（肯定形：持続態）、駐車しつける（肯定形：持続態）、行きつける（肯定形：持続態）、入りつける（肯定形：持続態）、渡りつける（肯定形：持続態）

統語的複合動詞 23 例中約半数に当たる 11 例は否定形での出現であった。使用頻度が相対的に多かった「食べつける」は 7 例中 4 例、「飲みつける」は 3 例中 2 例、「やりつける」は 2 例中 2 例で、動作の習慣性を否定する場合に用いられていた。読み手が意味を理解しようとする際に、肯定形の持続態の場合には、主体による意図的動作かどうかの判断が必要となる。しかし、否定形の場合には主体の意図は消えるので、「～つく」の可能形の否定形でないと判断されれば、習慣の行為の意味だと理解できる。このように否定形の場合は、読み手にとって理解時の負担は少なくなると言えよう。

このほか、肯定形の持続態で現れている例に、移動の様相を表さない V1 移動動詞を持つ複合動詞が多いことも、同様の理由かと思われる。「行きつける」、「入りつける」等は既に分析したように、V1 が移動の様相を表さないことによって統語的複合動詞だと判断されるので、読み手にとって理解時の負担は少ないと言える。この視点で「（医者に）かかりつける」「（場所に）駐車しつける」という表現を見ると、「医者にかかる」は「医者に通って診てもらう」という意味で、主体の移動が暗示される。また、「（場所に）（車を）駐車する」も、「自分が乗車しながらその車の位置を変化させる」という意味で、やはり移動の意味が含まれると言えよう。これらの広義の移動動詞も、移動の様相を表さないので、習慣の意味になると判断できる。したがって、V1 がこの種の移動動詞の場合には、肯定形の持続態が用いられても、読み手にとっての負担は少なく、意味の混同は起きにくいと考えられる。

ここで、最初に取り上げた I の a～d の 4 例の不自然さについて戻って考えてみたい。

まず、a～d の 4 例は、いずれも主体である「私」、「彼」、「看護師」、「母」による意図的動作として解される文になっている。つまり、これらの文は、初級レベルで学ぶ「毎日／いつも V ている」という主体による意図的動作の「習慣」の意味として捉えられるのである。この点が統語的複合動詞として不自然になる理由だと考えられる。

では、この 4 例をどのように直せばいいだろうか。統語的複合動詞の用法としては、まず、特定個人の意図的動作と解されないようにし、同時に、経験者による習慣的な反復行為の意味になるよう文を直す必要がある。さらに語彙的複合動詞としての用法についても考える必要がある。V1 動詞がもともとニ格を取らない他動詞の場合には、V2「つける」との複合動詞化でニ格が現れ、ニ格が対象の位置変化先を表し、複合動詞全体が達成動詞になる。一方、V1 動詞がもともとニ格を取る他動詞の場合は、「つける」との複合動詞化で達成動詞になるだけでなく、ニ格が重複することから対象がその位置変化先にしっかり固定される意味が強調される。この強調された達成行為は、習慣的な反復行為としては見なされにくいので、このような複合動詞の場合は他の統語的複合動詞に変える必要があると言える。

上記の点を考慮しながら、以下に指導案と修正の理由を記す。

〈指導案〉

a 例　普段同じキーボードを使いつけている（×押しつけている）人であれば、とても速く打てるはずだ。

理由）「押しつける」の V1「押す」はニ格を取らない他動詞で複合動詞化するとニ格を取る達成動詞に変化するため、「押しつけている」は意図的動作だと理解されやすく、習慣的な反復動作としては理解されにくい。そのため、動詞自体を統語的複合動詞「使いつける」に直した。また、特定個人を消し、一般的な経験者「同じキーボードを使いつけている人」に変えた。

b 例　日本語を読みつけない外国人は日本語の漢字の知識が不十分だろう。

理由）「読みつける」は統語的複合動詞として用いられるので、動詞はそのままとし、意図的動作と解されないように、主体を特定個人から「日本語を読みつけない外国人」というように一般化した。

c 例　看護師は毎日患者に包帯を巻き慣れている（×巻きつけている）から、とても上手だ。

理由）この文では、主体は特定個人ではなく看護師一般を指している。「巻きつける」は V1「巻く」がもともとニ格を取る他動詞で、複合動詞化によって、対象 Y が位置変化先 X にしっかりと固定されることが意味的に強調される。そのため、持続態の「巻きつけている」は主体の意図的動作の習慣的な反復行為として理解されやすい。また、この文は「看護師が包帯を巻くという行為に慣れている」という点が重要で、「包帯を巻く」という行為自体に焦点があるわけではない。そこで、動詞を「巻きつける」から「巻き慣れる」に変えた。

d 例　子供を叱りつけない若い母親は、初めて子供を叱ろうとして緊張した。

理由）d 例「母は弟をいつも叱りつけているので、家族は全然気にしない」は、部分訂正が難しい例である。「叱る」は V1 がニ格を取らない他動詞で V2「つける」が付いても対象はヲ格で表され、「つける」は「叱る」という行為が対象先に移行してそこで達成されることを強調するので、「母は弟をいつも叱りつけている」は個人の意図的動作の習慣の意味として解されてしまう。主語を一般化して母親と子供にしてもその意図的動作の意味は消えにくい。したがって、主語の一般化と否定形を用いることで意図を消して統語的複合動詞としての特徴を出すようにする。ほかに「生徒を叱りつけていない新任教師は、生徒の叱り方を学ぶ必要がある。」のような例に変えることもできよう。

以上、複合動詞「～つける」について統語的複合動詞を中心に考察した。

実例を見る限り、複合動詞「～つく」の可能形との混同は想定されるが、語彙的複合動詞と統語的複合動詞では V1 動詞が重複することはほとんどなく、意味の混同の可能性は極めて低いと言えよう。

「習慣」の意味を持つ統語的複合動詞は、前項動詞に意図的動作を表す動詞が来るが、行為自体に焦点があるため、意図的動作の主体は主語にはなれない。この点は、学習者だけでなく母語話者にとっても判断が必要になる点である。しかしながら、本調査の統語的複合動詞の使用傾向を見ると、実例の約半数は意志性のない否定形で使われていること、肯定形の持続態が用いられる場合は、その多くが移動動詞の場合になっていて、自然発生的な言語環境の中では、読み手に負荷がかかるような状況はうまく回避されているように思われた。

本調査で抽出された統語的複合動詞の例には明治の文豪の例も含まれており、古語の例も見られた。用例の著者の生年代が 19 世紀後半から 20 世紀前半ということで、全体的にとても古い印象があった。これは BCCWJ で利用できる書籍が古いことと関係があろう。

## V. おわりに

本稿では、統語的複合動詞「～つける」の不自然な作例を出発点として、BCCWJ における複合動詞「～つける」の使用頻度調査から、頻度順で第 36 位以下の語を対象にして、三つの異なるジャンルにおける統語的複合動詞の使用傾向を調べた。複合動詞の例が最も多く抽出された文学ジャンルの実例を中心に分析を行い、先行研究の成果を踏まえて、統語的複合動詞の用法を整理し、指導のためのより明確な記述を試みた。最後にその記述に基づいて、最初に取り上げた不自然な作例の問題点を明らかにし、指導方法を提案した。

実例を整理する中で、用法の時代的変遷に気づく例もあった。「吸いつける」という複合動詞は、語彙的複合動詞として「たばこを吸いつける」

が多く使われていたが、筆者にとってはこの表現は耳慣れないもので、「目を吸いつけられる」の用法とは対照的であった。同じ複合動詞の意味用法の中でもその比重が時代によって変化しているのがわかる。

日本語教育の現場では、実際に複合動詞の指導にかけられる時間はわずかであり、統語的複合動詞に至っては例を出して簡単に説明して終わりというのが正直なところである。短い時間を有効に使うため、引き続き、指導の際の簡潔で明快な説明を求めて、今後も複合動詞の課題に取り組んでいきたい。

**謝辞**

本研究で用いたデータは、村田・山崎（2012）で抽出したデータの一部を使用しています。使用をご許可くださった大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所研究系教授山崎誠氏に感謝いたします。また、複合動詞「～つける」の用法（「巻きつける」）については、柏崎雅世先生（元東京外国語大学留学生日本語教育センター教授）との議論が非常に有益でした。ここに感謝の意を表したいと思います。どうもありがとうございました。

**注**

1 複合動詞「～かける」の意味特徴は姫野（1999: 142）に基づく。

2 村田（2020）で表 6 として掲載したものと同じ内容であるが、表内に誤りが見つかったため、本稿でその訂正版を掲載した。

3 複合動詞の全数調査（村田 2016）の語数については検索時の数え間違いという人為的ミスにより既に何度か訂正を入れ、村田（2020）では複合動詞「～つける」の総数を 17528 語と報告している。今回の調査でも見直しを行ったところ、BCCWJ の原文資料内にも誤りが確認された（例「はきつける」が語彙素「着つける」で、「とかしつける」が語彙素「貸し付ける」で検索されている例があった）。自然言語処理の過程では 2％程度の検索ミスについては通常の範囲内と考えられるため、語数については今後も訂正が出ることを考え、暫定値として扱うことにする。

4 影山（1993: 101–102）参照。

5 検索時には複合動詞「～つく」の命令形は、複合動詞「～つける」の連用形と同

じ形態になるため、「追いつけ追いこせ」の命令形「追いつけ」が語彙素「追いつける」で取られていることを考慮し、命令形も除いた。しかし、複合動詞「～つける」の命令形は語の形態が異なる（例「買いつけろ」）ので、「～つく」の可能形終止形（例「追いつける」）のように「～つける」辞書形（例「買いつける」）と語の形態で混同することはないと考えられる。

6 「食いつける」、「行きつける」は統語的複合動詞として抽出されているが、自然科学（含技術・工学）の「食いつける」と社会科学の「行きつける」はいずれも「食いつく」と「行き着く」の可能形であった。

7 「やりつける」の V1「やる」は「する」の意味で「あげる」の意味ではない。

8 注 5 の理由により可能形のみを挙げてある。

## 参考文献

国広哲弥（1970）「日英両設置動詞の意義素」『意味の諸相』三省堂

森田良行（1977）『基礎日本語 1―意味と使い方―』

影山太郎（1993）『文法と語形成』ひつじ書房

姫野昌子（1999）『複合動詞の構造と意味用法』ひつじ書房

村田年・山崎誠（2012）「自然科学系書籍における複合動詞の使用傾向―後項動詞を指標として―」『日本語と日本語教育』慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター 40:83–112

村田年（2016）「BCCWJ を用いた複合動詞使用頻度調査表の改訂―22 後項動詞を指標として―」『日本語と日本語教育』慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター 44:115–131

村田年（2020）「BCCWJ に現れた複合動詞「押しつける」―自然科学系（含技術・工学）ジャンルと社会学ジャンル―」慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター 48:31–54

村田年（2021）「BCCWJ に現れた複合動詞「押しつける」2-文学ジャンル―」慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター 49:55–79